

徳島クリエイターズマーケット 26

7月28日(土)・29日(日)

午前10時～午後5時 ※最終日は午後4時まで

会場：北島町立図書館
2階ギャラリー

入場料：無料

主催：徳島クリエイターズ
マーケット事務局

(川久保 ☎080-4034-1090)

■全国津々浦々から凄腕の「モノづくり人」が集う、徳島県内最大級のハンドメイドマーケット、北島町では22回目の開催になります。■発起人は川久保貴美子さん。脱力系癒しキャラ「ししゃもねこ」で知られる、本町在住の造形作家さんです。■出展者は左図のとおりです。お気に入りの一品が見つかるかも！皆様、ぜひご注目ください。

CREATORS

Herb・Room leaf(ハーブ・ルーム リーフ)
■手づくり石けん ■徳島 初出展

m☆world(エムホシワールド)
■草 ■埼玉 初出展

maron-bakery(マロンベーカリー)
■ミニチュア ■徳島 初出展

糸鋸工房ジョイクラフト
■木工芸品 ■大分 初出展

ファクトリーザジ
■金工 ■大阪 初出展

CHI HARU DESIGN(チハルデザイン)
■ストール・布製品 ■兵庫 初出展

ステンレス屋さん
■ステンレスアクセサリー ■香川 初出展

Macky House(マッキーハウス)
■雑貨 ■愛知 初出展

アトリエKozaiku(コザイク)
■ガラス工芸 ■大阪 初出展

ナカオランプ
■木工 ■岡山 初出展

Handwork Stilla(ハンドワーク スティラ)
■金工アクセサリー・ジュエリー ■岡山 初出展

南屋(ナミヤ)
■アート/絵画 ■静岡 初出展

京都靴店小野正人(キョウトカバンタンオノマサト)
■手づくりの靴 ■京都 初出展

工房Chimachima(チマチマ)
■アクセサリー ■徳島 初出展

F Corsage(フローラル コサージュ)
■犬の服グッズ ■徳島 初出展

彩(サイヤ)
■ブック板、レジンアクセサリー ■愛媛 初出展

Hada craft(ハダ クラフト)
■木工 ■大阪 初出展

すのこ屋
■木工 ■高知 初出展

monerico(モネリコ)
■帆布カバン・布小物 ■兵庫 初出展

松茶商店(マツチャウテン)
■紋物茶と紋物茶のお菓子 ■大阪 初出展

パティシエールーム Huit(ユイト)
■ソフオンケーキ、焼き菓子、パン ■徳島 初出展

ぼ〜Handwerker(ハントヴェルカー)
■つまみ細工と天然石 ■徳島

メタルアートファクトリー
■金銀 ■大阪

鳥取 因幡焼(イナバヤキ)
■陶器 ■鳥取

LAND PLUS ARTS(ランド プラス アーツ)
■アクセサリー ■兵庫

羽ぶた舎ちびらぶ
■布たれ雑貨 ■徳島

COTTON COLON:(コットンコロロン)
■子ども服 ■香川

+sio(プラスシオ)
■帆布靴、布小物 ■徳島

+ garden(プラスガーデン)
■インテリア雑貨 ■大阪

CI CRAFT(シーアイクラフト)
■皮革 ■兵庫

マキコノ布ゾウリ
■日用品 ■徳島

ラップレスkuriko
■アクセサリー ■徳島

Rose Cocon(ローズ ココン)
■アクセサリー ■徳島・東京

緩里(ユルリ)
■wood雑貨 ■大阪

hito+(ヒトプラス)
■消防ホースのリユースとオリジナルの茶作品 ■温床

Gretel's Garden -グレートゲル-の庭-
■レジンアクセサリーなど ■徳島

visionary scheme Riu(ヴィジョナリー スキーム リウ)
■オリジナル茶具、生活雑貨、アクセサリー ■徳島

poco a poco(ポコ ポコ)
■小石細工作品 ■兵庫

MARTTA(マルッタ)
■雑貨・イラスト ■徳島

Ritawaco(リタワコ)
■服飾雑貨 ■岡山

うたげ屋
■顔面、和風雑貨 ■徳島

CALZA(カルザ)
■ナチュラル系革靴 ■兵庫

Re:mited made(リミテッドメイド)
■洋服 ■徳島

組紐工房おくや
■組紐 ■京都

Chikamatsuya(チカマツヤ)
■フランク雑貨・アクセサリー ■香川

昭和レトロモダンアクセサリー猫待草(ネコマチグサ)
■ハンドメイドアクセサリー ■香川

コヤギ社
■木工・雑貨 ■徳島

Petit Pure(プチピュア)
■生理おりの原モレ用布ナプキン ■徳島



WORKSHOP

ILFARO(イルファロ)
■ハンドペイント雑貨、ハンドメイドアクセサリー ■徳島

Lapipomme(ラピポム)
■アクセサリー ■徳島

albatory(アルバトリー)
■レザークラフト/彫金 ■兵庫

GANGU(ガング)
■木工クラフト ■兵庫

nonika(ノニカ)
■フラワー雑貨、アクセサリー ■徳島

SUNn・寸(スン)
■アクセサリー ■京都

ししゃもねこ社
■ししゃもねこグッズ ■徳島

ゆめらすく
■焼き菓子(クッキー、マフィン等) ■奈良

VegeMerry | ベジメリー
■パン、焼き菓子、ジャム、シロップ、グラノーラ ■兵庫

イラストレーターkana.(カナ)
■似顔絵、イラスト ■兵庫 初出展
「似顔絵即興描き」
●内容：似顔絵を描きます ●料金：500円～ ●所要時間：10分～ ●受付方法：会場受付

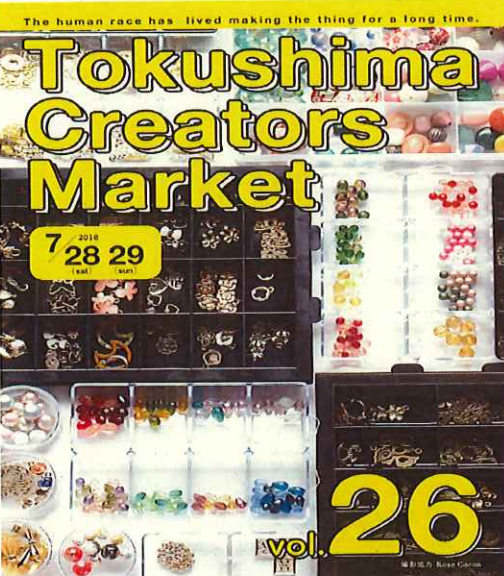
SWINGO(スウィング)
■エアプランツアレンジメント ■徳島
「エアプランツ・テラリウムワークショップ」
●内容：お部屋に飾って素敵に演出、人気のエアプランツのテラリウムをオリジナルで作ってみよう。 ●料金：1,000円～1,500円 ●所要時間：15-20分 ●受付方法：会場受付

TRIANGLE parfum(トライアングル パルファム)
■ルームフレグランス ■徳島
「天然香料を使用したルームフレグランス作り」
●内容：原料グッズを使い、ルームフレグランスの調合を行います。 ●料金：1,000円～4,000円 ●所要時間：10分程度 ●受付方法：会場受付

juchi(ジュチ)
■陶芸 ■兵庫
「縁起物や器に描く絵付ワークショップ」
●内容：ダルマさんやフクロウの土人形は好きな色で作って、ご縁茶碗やコップは5色で絵付け体験して頂きます。子供から大人まで楽しんで頂けるワークショップです。 ●料金：800円～ ●所要時間：約30分 ●受付方法：現地受付

リッキヤンドル
■キャンドル ■徳島
「キラキラキャンドルをつくろう」
●内容：ゼリーのようならをカットしてキラキラ輝くキャンドルをつくろう。子どもからおとなまで簡単に作っていただけます。 ●料金：1個1,200円 ●所要時間：約20分 ●受付方法：会場受付(お土産販売)

AtelierWaFLL+(アトリエワフール)
■ハーバリウム ■愛媛
「ハーバリウムのワークショップ」
●内容：ハーバリウムはプリザーブドフラワー・ドライフラワーとガラスの瓶に入れ、専用液を入れたインテリア雑貨です。 ●料金：1,200円～ ●所要時間：1本30分 ●受付方法：会場受付



自由研究応援！「植物採集講座」

7月21日(土) 午前10時15分～正午

申込受付：7月7日(土)午前10時～
(先着15組。定員になり次第しめきります)

対象：夏休みに植物採集をしようと考えている人
(小学生の方は保護者同伴でお願いします。)

会場：北島町立図書館2階ギャラリー
採集は図書館敷地内で行います。

お問い合わせ：北島町立図書館 ☎088-698-1100

あかちゃんのおはなしのへや

7月12日(木) 午前11時～11時30分

会場：北島町立図書館2階 ハイビジョン室

対象：0歳から3歳までの子どもとその保護者
内容：赤ちゃんから楽しめるお話、手遊びなど。

終了後、自由交流の時間を設けます。

お問い合わせ：北島町立図書館 ☎088-698-1100

読書感想文、どの本を読む？

ブックトーク おはなし会

7月14日(土) 午後2時～午後3時

会場：北島町立図書館2階 ハイビジョン室

対象：小学校1・2年生とその保護者

内容：四国大学在学学生によるおはなし会

読書感想文にぴったりの本を紹介します！

お問い合わせ：北島町立図書館 ☎088-698-1100

文◎化◎ジ◎ャ◎ー◎ナ◎ル

故郷は地球

～脚本家・佐々木守がめざしたもの③

S F 特撮研究家★池田憲章

講演採録●2007年2月25日●北島町立図書館・創世ホール

■ラジオ・ドラマ『戦国忍法帖』がいかに波乱万丈だったかといいますが、当時は豊臣秀吉の時代なので、ポルトガルとかスペインとか色々な国が、日本に入っているわけですが、ネーデルランド＝オランダですね、ネーデルランドが当時独立戦争をヨーロッパで起こしているわけですが、それが一色丈太郎（イッキジョウタロウ）と甲賀忍者に手助けを求めて、一色たちはヨーロッパに渡って、オランダ独立戦争に参加するわけですね。

■一方対するスペインは、「では、我等も」といって伊賀忍者に応援を求め。それで伊賀忍者がオランダに現われて、ガリレオ・ガリレイに出会ったりとか、当時の歴史上の実際の人物が出てきて、びっくり仰天みたいな展開があるわけです。

■橋本洋二さんもおっしゃっていたのですが、ラジオ・ドラマというのは、例えば、関が原で戦っていますよね、そこに「一方オランダでは」というナレーションにかぶせて、風車がギシギシッと回る音があり、音楽が流れるともうそこはオランダになるわけです。ある種空間と時間を超越することが可能なわけですね。これで結局最後に秀吉が朝鮮に出兵して、「おのれ秀吉、俺のたたかいは負けぬぞ」といって、秀吉を倒せないまま物語は終わってしまう。

■これは佐々木さんによると、明治大学時代に佐々木さんは砂川闘争で16日間応援に行き、現地で闘ったことのある方なんですけど、60年安保の挫折を物語の中に織り込んで、でもその中でもあくまでキャラクターたちの戦いは負けていない、「俺たちは俺たちの思いを遂げるんだ」ということを盛り込んだ。佐々木さんは、13カ月にわたるこの連続ドラマで400字詰め8000枚ぐらい描いたとおっしゃっていました。それがあつた種子も向けラジオ・ドラマの終焉を迎えることになるんですね。

■それで大島渚さんのところの助監督をやることになり、「日本春歌考」という作品に関わります。大島さんが、脚本家の田村孟さんや石堂淑朗さん、俳優の戸浦六宏さんや小松方正さんや小山明子さん、それから渡辺文雄さんなどと作った映画プロダクション・創造社に佐々木さんも入って、次々に大島さんの映画の共同脚本家として活躍することになるわけです。

■「日本春歌考」では、佐々木さんは脚本だけではなく、助監督でもあり、予告編の演出と構成もおやりになっています。「日本春歌考」の音楽を担当された林光さんという作曲家の方がいるんですけど、佐々木さんが亡くなった後に、ブログに追悼文をお書きになっているのですが、この「日本春歌考」のことが出てきます。ちょっと引用してみます。

……【佐々木が脚本のかんりの部分を書いた大島映画『日本春歌考』（1967）には、＜紀元節＞反対デモのシーンがあった。／デモ隊は、真ん中の丸が黒く塗られた＜日章旗＞をかついで行進する。街頭ロケだから、何人かの警官が、警備と交通整理のために随伴してくれている。ひとりが、助監督の佐々木に尋ねた。この日の丸はどうして黒いんですか？／助監督はこともなげにこう答える。ああ、この映画は白黒映画だから、これでいいんですよ。／警官は納得し、安心して警備をつづける。／「日本春歌考」は、

もちろんカラー映画である】（笑い）……。

■「日本春歌考」はDVDになっていて、本編と共に予告編も入っています。この予告編が面白い。創造社には、渡辺文雄さんとか戸浦六宏さんとか、バリトンの大変声のいい俳優さんが揃っているんですが、「日本春歌考」の予告編では、なぜか小松方正さんがナレーションを担当してまして、字幕で「ひとつ出たホイのヨサホイのホイ」というのが出ると、すごくやる気のない軽い声で、「ひとつ出たホイの～」とかぶさって、本当に演出が遊んでいる。当然、佐々木さんが担当されているわけです。

■今お話ししてきたように佐々木さんは創造社では、単にシナリオ・ライターというだけではなくて、助監督や予告編もやり、一言一言のセリフを共同脚本の形で大島さんや田村さんや石堂さんと火花を散らして、取り組むようになるわけですね。そうした中で、実相寺昭雄さんが姿を現わすわけです。大島さんが作られていた「日本の夜と霧」をはじめとする日本ヌーベルバーグと呼ばれた作品群に、ものすごく興味をもって、魅かれていた実相寺さんは、自分のテレビ作品の中で大島さんにシナリオを依頼するわけですね。「大島さん、シナリオ書いて欲しいんですよ」と。まあ断られてもいいやと思いつつ、依頼した。大島さんもテレビに対して興味を持っていましたから、「いいよ、じゃあ書こう」ということで、実相寺さんは大島さんの脚本で2本ほどテレビ・ドラマを作るんですね。

■そのときのエピソードがありまして、これは実相寺さんから2、3年前にうかがったことなんですけど、作品が完成して大島さんがそれをご覧になったんですね。大島さんに「どうでしたか」と感想を求めた。そのときに大島さんが「実相寺、お前はいつもベスト・ショットを考えているだろう」と言われたそうなんです。例えばお前と俺が会話していて、真ん中に灰皿があったとする。そしてインサートで会話の中に灰皿が映り込むとする。お前は一番いい形で灰皿を撮りたいだろう、「撮ると思います」。「実相寺、2回目に灰皿が入ってきたときはどうするんだ。もうベスト・ショットは使ってしまったぞ。映画というものは、絵だけで組み立てると、ある罫が待っているんだ。そのためにシナリオや、構成や音付けなど、色々なものがあるんだぞ。考えた方がいいぞ」。

■実相寺さんは「それは、今でも、ときどき思い出すよ」と、2、3年前おっしゃっていました。「でも、どうしてもベスト・ショットを考えてしまう」といって実相寺さんは笑ってらっしゃいましたけど（笑い）。

■実相寺さんは昭和12年の3月生まれ。昭和11年組なんですね。大島さんは、「どうもお前は佐々木守の方が合うんじゃないか。佐々木守ってのがいるからやってみようよ」といって、大島渚さんが実相寺昭雄に佐々木さんを紹介するんですね。同年ですから、意気投合して作品をやりましょうと。

■ところがこれがなかなか実現しないんですね。例えば「おかあさん」というTBSのシリーズがあるんですけども、これで佐々木さんが実相寺さんのために書いた台本は、想像妊娠のお話で（笑い）、結局これはNGになってしまうわけですね。「おかあさん」というオムニバス・ドラマは、毎回色々なおかあさんが主人公になって出てくるんですけど、その内容が想像妊娠ではやっぱりちょっとできないと。

■何本かの作品を経て「ウルトラマン」にたどり着くことになるわけですね。「ウルトラマン」というのは、金城哲夫と円谷一が中心になって作り上げた物語ですけれども、そこに実相寺昭雄さんが参加することになる。

■ここに今手にしている台本は、「ウルトラQ」のナンバー21「キリがない」という作品のもので、万福寺百合（マンブクジユリ）というペン・ネームで実相寺昭雄さんが「ウルトラQ」のときに書いていた台本です。

■円谷一さんは、実相寺さんの才能に気付いていたので、「円谷プロにこいよ」という形で円谷プロに向きさせた。これ以外に、もう1本「バクたる」という、夢の怪物を主人公にした作品があって、でも、結局イメージが凄すぎて、「ウルトラQ」の段階では実は映像化できなかったんですね。本当は「ウルトラQ」に実相寺さんは参加するはずだったんですが、次の「ウルトラマン」で実現する、ということになるわけです。

■それでまあ、「ウルトラマン」のシリーズ構成は、金城哲夫が担当していた。例えば怪獣デザイナーである美術監督の成田亨さんとの打ち合わせも金城哲夫が果たしていたんですね。金城哲夫はシナリオだけではなくて、ある種ライン・プロデューサー的な役割も持って、シナリオ・ライターとの打ち合わせも、当然金城がやっていたわけです。佐々木守と実相寺昭雄との付き合いの中でシナリオが出来上がってきた。「真珠貝防衛司令」と「恐怖の宇宙線」がそれです。

■「恐怖の宇宙線」の原題は、「夜と朝の間に」という非常に詩的なタイトルなんですけど、それが「恐怖の宇宙線」になったわけですが、この物語は、絵に宇宙線が降り注いで、絵から怪獣が出てきてしまって科学特捜隊は大騒ぎ、ところが怪獣は寝てばかりいるんだけれども、社会に迷惑をかけているので科特隊は攻撃をかけるみたいなことなんですけど。

■この中に現代っ子としかいいようのない少年少女たちが姿を現わすわけですね。佐々木さんのほかの作品にも、けっこう共通する部分なんですけど、子どもたちは、ゼロセンとかムシバとかサスケとか、あだ名で、お互いを呼び合う、そんな少年少女たちが出てきます。

■先週、上原正三さんにお会いしたときに、おっしゃっていたのですが「僕らの子ども時代はみんなそうだったよ」と。子ども同士ってあだ名で言い合っていたよねー、小林信彦さんの戦前を扱った小説を読んでいたら、お互いに名字で呼び合っていて、なんか山の手の少年みたいでピンと来ねえんだよねー、と上原さんは言っておられました。佐々木さんの子ども像というのは、子どもがあだ名で呼び合うというのは、生まれた時の名前とはまた別の、友達同士だけの本当の付き合いの中の名前なんですね。ですから「ウルトラマン」の中で佐々木さんが作品を書くと、そういう形が多い。

■映像の中ではムシバって名前しか、セリフになってないんですけど、台本にも本名なんかいないんですね。ムシバ、サスケ、ゼロセンという形で書いてあるわけです。そういう作品の中で実相寺さんは本領を発揮していくわけですね。金城哲夫は、佐々木守と実相寺昭雄の打ち合わせを聞いて、かなり奇想天外な、宇宙線の影響で子どもたちの絵から怪獣が出てしまうというアイデアに驚くわけですね。子どもの絵は、本当の思いが入っているから、宇宙線で実体化するんです。円谷一もそうですけど、佐々木・実相寺コンビの作品によって「ウルトラマン」の幅が広がると。それを否定するのではなくて、この作品があることによって自分たちのウルトラマン像というのが広がってゆくと。星になったガヴァドンの中から涙が、悲しみの流れ星のようになって落ちるんですけど、円谷英二さんも「特撮はこういう使い方があっていいね」という風に、非常に喜ばれたとスタッフから聞いてます。

■それで手応えを得て、その次に実相寺さんのために佐々木守さんが書き上げるのが「故郷は地球」です。「故郷は地球」というのは、もし「ウルトラマン」の中で、自分で一本代表作を挙げるとすればこれかなって、佐々木さんが生前ご自身でおっしゃっていた作品です。非常にいい題材だったものだから、実相寺さんが映像的にもノリにノって優れたものに仕上げました。（次号に続く／採録・文責＝小西昌幸）